

きずな

小牧市民病院の理念

- 1 安全で質の高い急性期医療を行います
- 2 恕の心で患者さんに寄り添う病院を目指します
- 3 医療を通じて、安心して暮らせる地域の実現に貢献します



実際の放射線治療の様子

特集 放射線治療科 強度変調放射線治療 (IMRT) が始まりました!!

【健康教室】 転倒・転落予防の取り組みについて

【各課だより】 薬局(抗がん剤調製室・外来化学療法センター)

【職場紹介】 医療情報システム室

【意見箱から】 Wi-Fiサービスについて

お知らせ

● 病院案内図

● 外来案内



キミと一緒に、生きていきたい。
Komaki

放射線治療科 強度変調放射線治療 (IMRT) が始まりました!!

強度変調放射線治療 (IMRT) とは

放射線治療は、手術・化学療法とならぶ悪性腫瘍に対する治療法の3本柱の1つであり、臓器の機能・形態の温存を可能にする優れた治療法です。また、局所療法であるため全身への影響が少なく、医師の判断により外来での通院治療も可能です。当院ではこの度、従来の3次元原体照射（以下、3D-CRT）の進化形である強度変調放射線治療（IMRT：Intensity Modulated Radiation Therapy、以下IMRT）の施設基準の認定を取得し、治療を開始いたしました。

従来の3D-CRTでも照射される放射線を腫瘍の形に合わせ、正常な臓器への副作用（被ばく）を最低限に抑え治療をしています。しかし、3D-CRTでは正常な臓器への副作用を減らすために、線量分布に急峻な凹みを作ることが難しい場合もありました。一方、IMRTは腫瘍の形に合わせて放射線の線量に強弱をつけ（強度変調）、腫瘍本体に集中して照射すると同時に、その周囲の正常組織への不要な被ばくを最小限に抑えることを可能にします（図1参照）。

前立腺がんの場合、前立腺へ十分な放射線量を集中させながら、正常組織である膀胱や直腸への線量を減らすことが可能です（図2黄色矢印参照）。放射線治療最大のメリットは外科的手術に比べ体の負担が少ないことであり、IMRTは従来の治療法より合併症や副作用を少なくすることが期待できます。放射線が照射された範囲内の腫瘍細胞が減少・死滅することにより、腫瘍の縮小・消失等が期待されます。外来治療の場合、1か月半程度、平日毎日の通院が必要となります。IMRTの適応部位は前立腺だけでなく、頭頸部、肺、骨盤など様々です。ご不明な点などございましたら、是非放射線治療科へご相談ください。

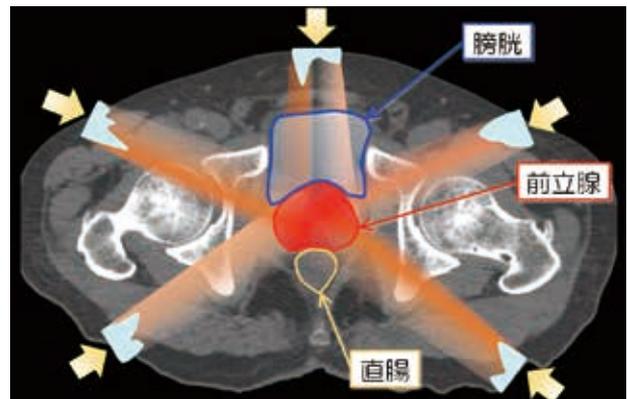


図1. IMRTの原理

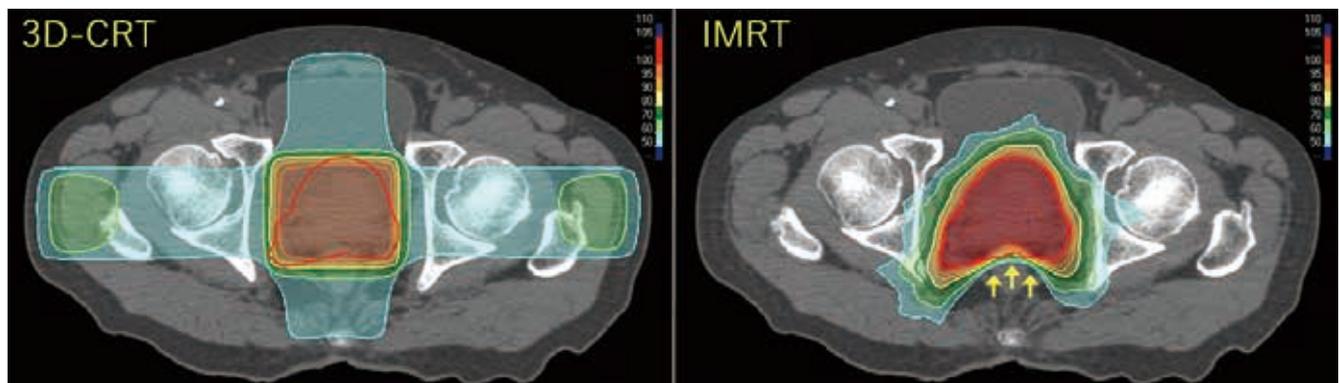


図2. 3D-CRT (左) とIMRT (右) との比較

注) 臨床データではありません

高精度放射線治療装置 TRUE BEAM®

当院では、放射線治療装置である米国「バリアンメディカルシステムズ社」のTRUE BEAM®を2019年8月より導入しております。前記IMRTだけでなく、定位放射線治療(SRT)や体幹部定位放射線治療(SBRT)、呼吸同期照射、そして深吸気息止め照射(DIBH)などの様々な高精度放射線治療も行っています。骨転移の緩和照射に限りますが、1回の治療で完遂できる治療も積極的に導入しております。



安心して放射線治療を受けられるように

放射線治療科では常勤2名の放射線治療専門医が在籍し、患者さんが安心して最善の放射線治療を受けられるように、毎日科内カンファレンスを行い多職種で意見を交わしています。当院では医学物理士や放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、治療専従看護師が協力し高度な技術を要する治療を行っています。

また、第三者機関による出力測定を定期的を受けており、放射線治療の品質管理も徹底しております。そのほか多数の施設基準の認定を取得しております。

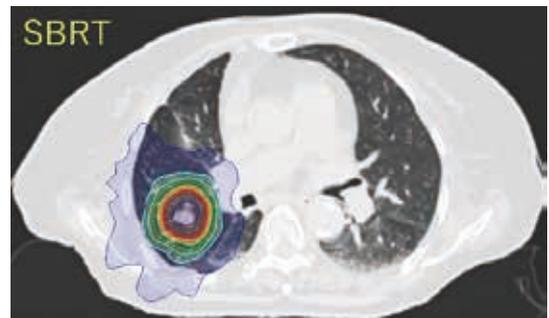


科内カンファレンス

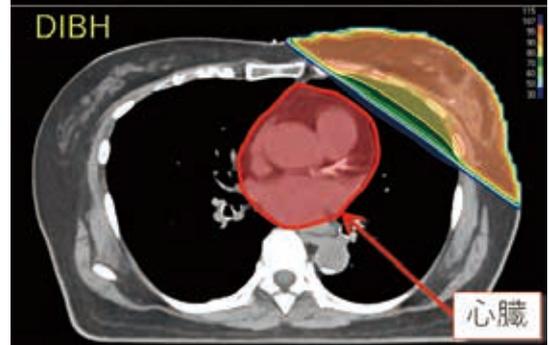
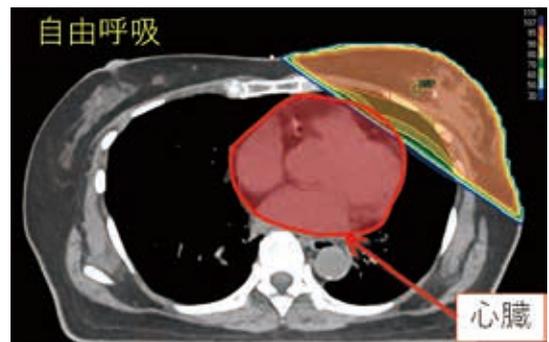
そのほかの高精度放射線治療

IMRT以外の治療方法として、体幹部定位放射線治療(SBRT)や乳がんの深吸気息止め照射(DIBH)についてもご紹介致します。

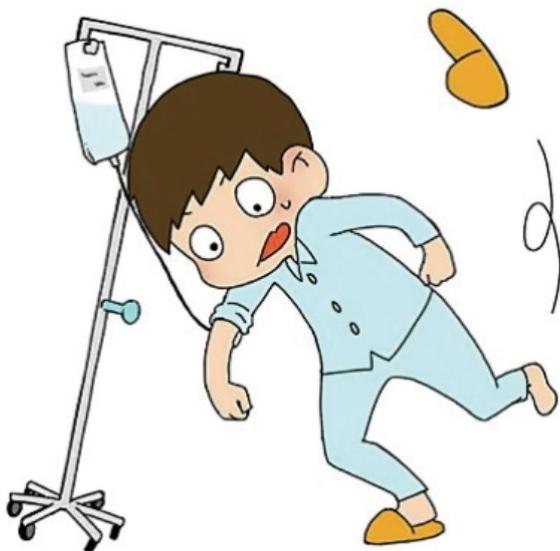
体幹部定位放射線治療(SBRT)：肺がんに対してピンポイントで狙い高線量を照射する照射法です。中には呼吸停止下照射や呼吸同期照射も行っております。



深吸気息止め照射(DIBH)：左側の乳房照射の場合、心臓に放射線が当たることによる心血管系合併症のリスクを減らすためにDIBHを行っています。大きく息を吸い乳房と心臓との距離を空けることで心臓への被ばくを減らすための照射法で、当院では2019年から開始しております。



当院では、転倒・転落予防の取り組みをしています。その取り組みについて説明します。



病院は安全で段差が少なく、常に看護師がいるため、入院中の転倒・転落は起きないと思っていないでしょうか。しかしながら、歩行に問題がない健康な人でも転倒します。病院では、家とは違う不慣れた場所や留置物のある状態での歩行、病気による貧血や発熱などによるふらつき、薬剤の影響や入院による環境の変化で不安が増大し、予期せぬ行動から転倒・転落が起きます。そのため、看護師は入院中の患者さんに転倒・転落の危険がどの程度あるか、適宜評価をします。また、患者さんの状況に応じて行動を支援するよう、ベッド周辺的环境整備や留置物の整理をします。転倒・転落対策を考えるのは看護師だけではなく、病院全体として取り組む必要があります。

このため当院では、多職種（看護師・医師・理学療法士・薬剤師）で転倒・転落対策に取り組むチー

ムがあります。看護師は患者さんの生活動作や状況、医師は疾患や症状、理学療法士は訓練から推定される残存機能、薬剤師は薬の作用、それぞれの専門的視点から転倒・転落要因にアプローチします。そして、転倒・転落の危険度が高い患者さんへの巡回と対策の助言、院内の転倒・転落の動向など毎月報告し、院内の職員へ情報共有する活動をしています。



患者さんが安全な入院生活を送るためには、患者さんやご家族にも転倒・転落の危険について認識していただくことが必要です。そのため、入院時は転倒・転落の危険と予防対策について、説明と冊子を渡しています。入院中の履物は転倒予防のため、スリッパではなく履き慣れた靴を持参してください。また、ナースコールを遠慮し、無理して行動してしまう患者さんも多くいますので、遠慮なくナースコールを押してください。

何かご質問がございましたら、各病棟の看護師にお尋ねください。

抗がん剤調製室

抗がん剤はがん治療において欠かせない治療のひとつです。薬剤師は安心・安全に患者さんへ投与できるように、処方された内容を確認し、患者さんに適した抗がん剤が選択されているか、適した用量・間隔で実施されているか、などの確認を行っています。抗がん剤調製室では写真のように注射瓶から薬液

を吸い取り、輸液バックに混和する業務を行っています。抗がん剤はがん細胞を攻撃するだけでなく、正常細胞にも悪影響を及ぼす性質をもっていますので、正確にはかり、調製することはもちろんですが、抗がん剤による職業曝露リスクを低減するためにも最大限の対策を講じています。



外来化学療法センター担当薬剤師

最近の抗がん剤治療は副作用が軽減された抗がん剤の開発、副作用を軽減する支持療法薬の登場などにより、外来で行われることが多くなっています。患者さんが安心して抗がん剤治療を受けられるように、医師、看護師、薬剤師などのスタッフの力を集結して患者さんをサポートできるよう努めています。

当院では外来化学療法センターに1名の薬剤師が常駐しており、患者さんに問診を行い、治療効果・副作用・服用状況を確認しています。必要に応じて副作用を予防・軽減するための薬剤の使用を主治医に提案しています。自宅で過ごす患者さんをサポートするために病院と調剤薬局の連携を強化する取り組みも行っています。抗がん剤の副作用は患者さんごとに異なりますので、多職種で患者さんひとりひとりに対応できるよう努めております。



医療情報システム室は平成31年4月に新病院開院以降の業務拡大を見据え、医事課の情報システム係が独立して、院長直轄の部署として新設されました。医療情報システムとは、電子カルテシステムや医事会計システム、各部門システムの総称で、当院では50を超えるシステムが稼働しています。

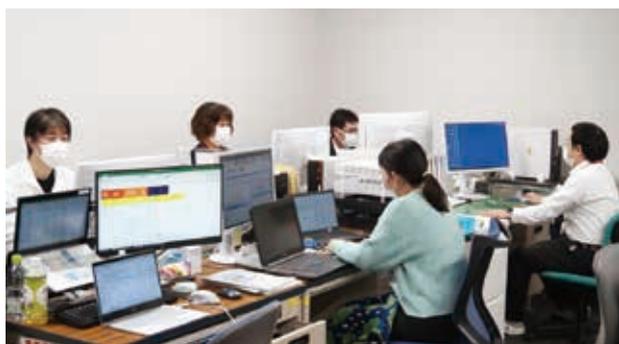
当院は三次救急医療機関として24時間365日、患者さんの受入れを行っています。このため、医療情報システムも同じく24時間365日の安定稼働が求められます。当室は、今や診療には欠かせないこの医療情報システムの安定稼働を維持するために、日々の点検はもとより、機器の故障やシステム障害が発生した場合は医療現場や患者さんの治療に支障を来さないよう迅速な対応を行っています。

また、各部署からシステムの操作や運用に関する問合せ・要望が日々寄せられます。これらに真摯に対応することでシステムの利便性が高まり、結果的

に医療の質の向上につながっています。国も医療DX（データとデジタル技術を駆使して医療提供上の課題解決を目指すこと）を推進していますので、その動向に注視し、当院でも実施しています。

そして、当室が細心の注意を払っているのがセキュリティ問題です。昨今、医療機関においてもサイバー攻撃の被害を受け診療制限を余儀なくされるなど、大きな問題となっています。幸い、第三者機関のセキュリティ診断では、当院の医療情報システムにおけるセキュリティリスクはありませんでしたが、対策に終わりはなく、新たな脆弱性（コンピュータのOSやソフトウェアにおいて、プログラムの不具合や設計上のミスが原因となって発生した情報セキュリティ上の欠陥のこと）が見つければ遅滞なくセキュリティパッチを適用の繰り返しです。システムが停止すれば病院で働く職員のみならず、患者さんにも多大な迷惑をお掛けしてしまいます。国が推奨するセキュリティ対策を施し、システムおよび患者さんの情報を守るのも当室の重要な業務の一つです。

皆さんが安心して当院を受診し、安全に治療が受けられるように、これからもシステムの管理・保守を誠心誠意行っていきます。



当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。そこで、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

《いただいたご意見》

Wi-Fiサービスに接続する説明が入院案内にあるが、アバウトすぎてわからない。



《ご意見に対するお答え》

医療情報システム室



この度は、Wi-Fiサービスの接続に関する貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

入院案内には入院療養に関する様々な情報を掲載する必要があることから、患者さん用Wi-Fiサービスの説明に今以上のスペースを確保するのは難しい状況です。そのため、患者さんに分かりやすい操作説明書を作成し、11月4日(金)に各病棟に配置いたしました。Wi-Fiサービスの接続にお困りの場合は、お近くの職員にお声かけください。

小牧市民病院の基本方針



◎ 医療の質の向上

職員は自らの専門性を高めるとともに、職種間のコミュニケーションを良好にし、患者さんを中心としたチーム医療を推進することで、安全で質の高い医療を追求します。

◎ 患者本位の医療の実践

「恕」の心で患者さんの視点に立った思いやりのある医療を行います。

◎ 医療人の育成

将来にわたり地域医療に貢献できる優れた医療人を育成するとともに、働きやすい職場環境づくりに努めます。

◎ 地域社会への貢献

地域完結型医療の充実に向けて、地域の医療機関との役割分担・連携をさらに密にしつつ、地域の医療水準の向上につなげることにより、地域社会のニーズに応えられる医療体制を確立します。

◎ 経営の健全化

医療情勢の変化に対応するとともに、自院の強みである高次医療を積極的に展開することにより、安定した経営基盤の確立を目指します。

臨床研修理念

・「恕の心」を持って、謙虚、感謝の念を忘れずに、プライマリ・ケアの診療が出来る医療人を育成します。

臨床研修の基本方針

- (1)医療の本質の「仁」と「尽」を理解し、人格のかん養に努め、患者・家族中心の医療を実践します。
- (2)チーム医療の重要性を理解し、他者からの意見を真摯に受け入れた医療を実践します。
- (3)常に最先端の医学的知識の習得を心掛け、最善の医療の提供に努めます。
- (4)地域医療に参画し、全人的医療を実践します。

市民病院案内図



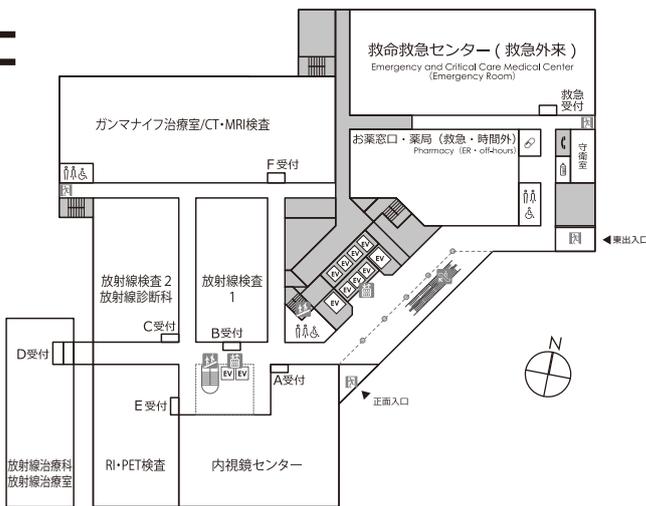
■ 有料駐車場料金

- 1時間まで無料
- 1時間を超え8時間まで100円
- 8時間を超え24時間まで1,000円
- 以降24時間を超えるごとに1,000円加算

■ 外来患者用駐車場

外来案内

1F



〈診療受付時間〉

午前8時30分～午前11時30分

〈診療時間〉

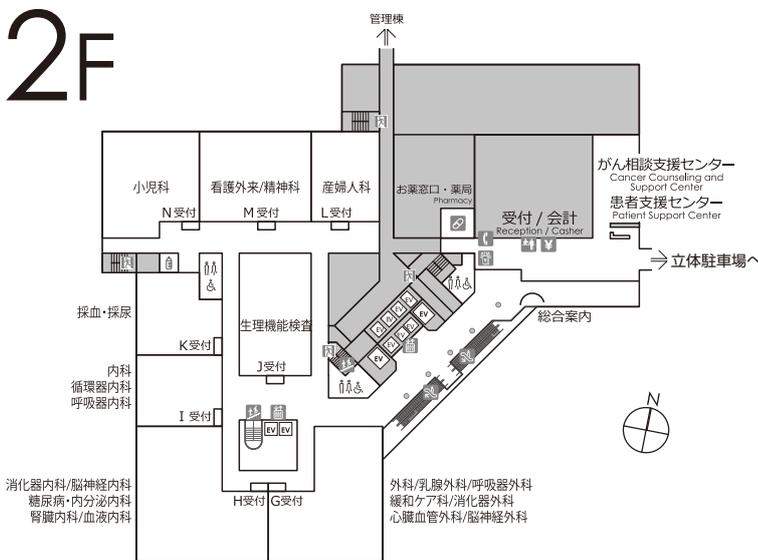
午前9時～午後5時

〈休日〉

土曜・日曜・祝日・年末年始

※急患の方は、救命救急センターで随時診療

2F



3F

